

ボールの特性レポート

BALL REPORT



ボール名 ナノデス アクキュライン 10	投球者 徳江 和則	センター 平和島スターボウル
RG 2.460	△RG 0.051	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール

テストボール：アクキュライン 10

フレアーの幅 インチ

表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤

PAPからピンとの距離 **4** インチ

比較対照ボール：アクキュライン 9

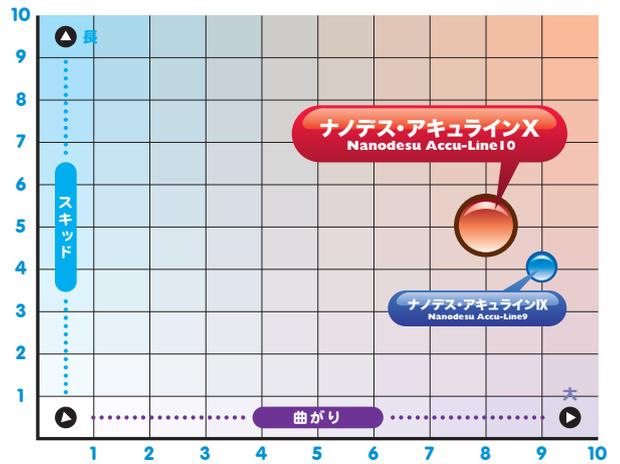
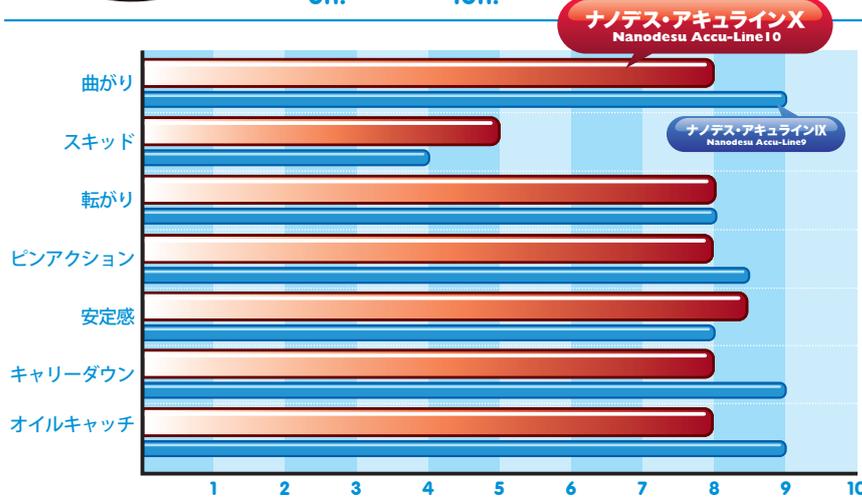
フレアーの幅 インチ

表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤

PAPからピンとの距離 **4** インチ



- ヘビー
- ミディアム
- ライト
- バフ



レーンコンディション	バックエンドリアクション	レンジス
Light Oil, Light to Medium, Medium Oil, Medium to Heavy, Heavy Oil	Smooth, Smooth to Arc, Arc, Arc to Sharp, Sharp Angle	Early Roll, Early to Med, Med-Lane, Med to Late, Late Roll

ボールの評価

アクキュラインシリーズも愛されて今回のXを含め12弾。アクキュラインシリーズはこの「X」をもって完結致します。今回のアクキュライン10は今尚追加生産されているアクキュライン9の”AVEX 9”カバーストックと先月Pリーガー専用モデルとして限定発売したアクキュラインPREMIUMの”AVEX Premium”双方のカバーの特性を持ち合わせた、オイルに強く、反応の良いリアクションをコンセプトとして作り上げられました。スキッドはアクキュライン8>アクキュライン10>アクキュライン9の順で、曲がり幅はアクキュライン9>アクキュライン10>アクキュライン8とちょうど中間に位置しますが、バックエンドの反応の良さは3つの中でも最大に感じます。コンディションによってはアクキュライン9よりも曲がり幅を感じることができ、使用できる用途の広さでも「万能な曲がるボール」として必ずや貴方の武器となることでしょう。

このアクキュライン10はカバーストックもさることながら、新しく開発されたNEWコアがアクキュライン9のBIG SHUTTLEコアを凌ぐ性能を持っていることも開発スタッフが自信をもってリリースする所以でもあり、シリーズ最終章を飾るに相応しいパフォーマンスと断言できます。今までアクキュラインの開発に携わり、私自身ポリッシュ状態での最高値は「アクキュライン8以上は不可能」と感じていた限界を超えたものがリリースできる喜びと、何より期待がこのボールに託されています。

クランカー、ストローカーさまざまなタイプの方に是非使用して頂きたい。オイルに対しての強さ、反応の良いバックエンドリアクション。すべてにおいてバランスの良いボールという表現はこのアクキュライン10を投げずして語ることはできません。

特記事項

アクキュラインファン待望の新作。スキッド・曲がり、ピンアクションに至るまでのバランスの良さ。最終章に相応しい完璧な仕上がりでリリースです。